

トレムフィア®

をご使用になる患者さんへ

トレムフィア.jpのご紹介

トレムフィア®に対する理解を深め、正しくご使用いただけるよう、トレムフィア®をご使用になる乾癬または(および)掌蹠膿疱症の患者さんとそのご家族に向けた情報を提供しております。ぜひ一度アクセスしてください。



<https://www.tremfya.jp/>

監修: 社会福祉法人聖母会聖母病院 皮膚科部長
小林 里実 先生

医療機関名

ヤンセンファーマ株式会社

TRM-0049
TRM.Pt034.5
2025年1月作成

掌蹠膿疱症の治療目標

しょうせきのうほうしょう
掌蹠膿疱症は、手のひらや足のうらに、うみを持った小さな水ぶくれ(膿疱)のうほう
が繰り返してできる慢性の病気です。外敵から体を守る免疫作用の過剰な働きが主な原因で、膿疱の中に菌は入っておらず、他の人に感染することはありません。

扁桃腺や歯周における免疫反応などが原因となることがあり、それらの治療によって症状がよくなる場合があります。そして、掌蹠膿疱症の治療には、塗り薬や飲み薬による治療、光線療法などの治療のほかに、生物学的製剤による治療があります。

掌蹠膿疱症の症状を抑え、あなたのやりたいことを実現するためには、あなたの希望やライフスタイルにあった治療法に出会うことがとても大切です。あなたの想いや希望を主治医に伝え、前向きな気持ちで一緒に治療に取り組んでいきましょう。また、必要な治療はしっかりと続けることが重要です。

目次

掌蹠膿疱症の治療目標	2
掌蹠膿疱症ではどのような症状がみられますか?	3
トレムフィア®はどのように効くのですか?	4
コラム:トレムフィア®はヒト型モノクローナル抗体製剤です	5
トレムフィア®による治療について	6
トレムフィア®の投与スケジュール	7
トレムフィア®による治療中の注意	8
副作用について	9
トレムフィア®治療Q&A	10

掌蹠膿疱症では どのような症状がみられますか?

しょうせきのうほうしょう
掌蹠膿疱症では、主に手のひら(手掌)や足のうら(足蹠)に水疱や膿疱が繰り返してできます。また、関節の症状を伴うことがあり、患者さんによっては関節の症状が皮膚の症状よりも先に現れることがあります。

●皮膚の症状

はじめに皮膚が赤くなり(紅斑)、そこに小さな水ぶくれ(水疱)ができ、その後、膿疱になります。しばらくすると、膿疱が乾いてかさぶたができ、はがれ落ちます。一度にたくさん水疱や膿疱ができると、手のひらや足のうら全体に紅斑がみられたり、皮膚が厚くなってひび割れてしまい、痛みを伴うことがあります。その他に、爪の変形がみられたり、すねや膝など体の他の部分に紅斑や膿疱ができたりすることがあります。



●関節の症状

関節や骨に炎症が起きて、痛むことがあります。特に、胸骨と鎖骨をつなぐ関節(首の付け根や胸)で多くみられますが、その他に首や背中、腰などにも痛みを生じることがあります。

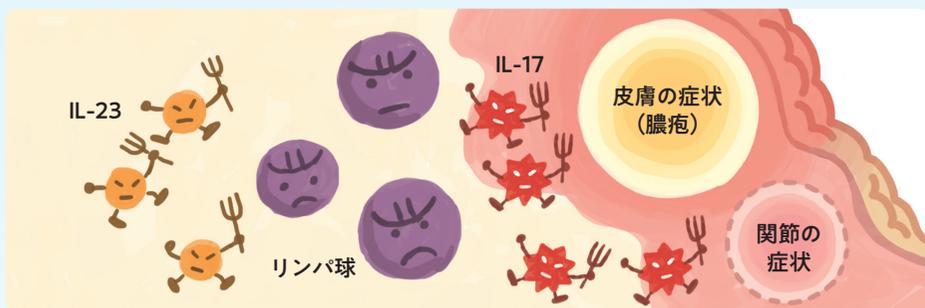


トレムフィア®はどのように効くのですか？

トレムフィア®は、IL(インターロイキン)-23という物質の働きを抑えるお薬です。IL-23は、リンパ球に働くことにより、掌蹠膿疱症の皮膚の症状に関係するIL-17を多く放出させます。トレムフィア®を投与することで、IL-23の働きを抑え、IL-17の放出を減らすことができます。

●膿疱が現れるメカニズム

IL-23によってリンパ球が刺激されると、リンパ球が炎症などを引き起こすIL-17を放出し、皮膚や関節の症状が現れます。



●トレムフィア®を投与した場合

トレムフィア®を投与すると、IL-23の働きが抑えられ、リンパ球からのIL-17の放出が減ります。それにより、皮膚の症状が改善します。



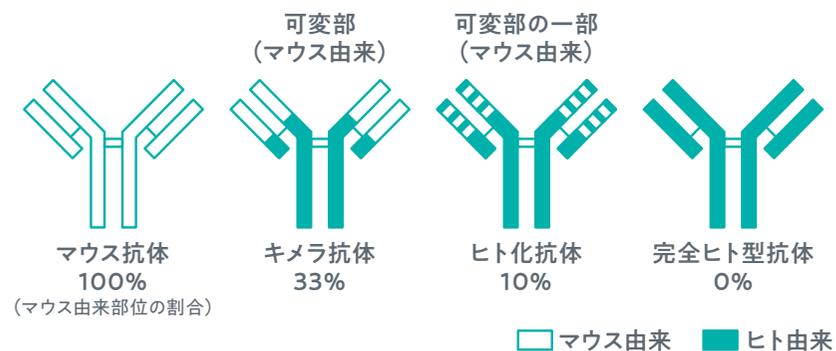
コラム

トレムフィア®はヒト型モノクローナル抗体製剤です

人の体内ではウイルスなどの病気の原因となる物質(抗原)は、免疫が働いて異物と認識されると「抗体」により排除されます。この仕組み(抗原抗体反応)を利用した医薬品が「抗体製剤」です。抗原に対する抗体を人工的に作って体内に入れ、抗原の働きを抑えることで、病気を治療します。

抗体製剤は、特定の抗原タンパク質を標的として結合し、抗原タンパク質が病気を引き起こしたり、進行させたりすることを抑制して、効果を発揮します。遺伝子工学の技術を用いて作製され、由来となる抗体タンパク質のアミノ酸配列により構造が異なり、従来はマウス由来でしたが、現在はヒト由来のものが主流です(図)。

トレムフィア®は、掌蹠膿疱症などで免疫機能に異常をきたし過剰に増えている抗原タンパク質、IL-23を標的とした抗体製剤で、完全ヒト型抗体製剤の1つです。



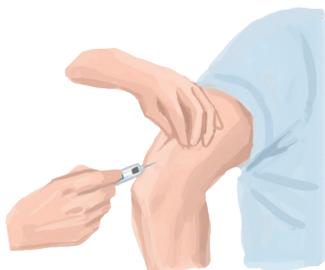
トレムフィア®による治療について

トレムフィア®は皮下に投与する注射薬です。

投与は医療機関で医師または看護師によって行われます。

注射をする部位は、二の腕(上腕部)の外側、おなか(下腹部)、太もも(大腿部)のうち、症状や傷がない部位です。

注射をする部位*



二の腕(上腕部)の外側



おなか(下腹部)



太もも(大腿部)

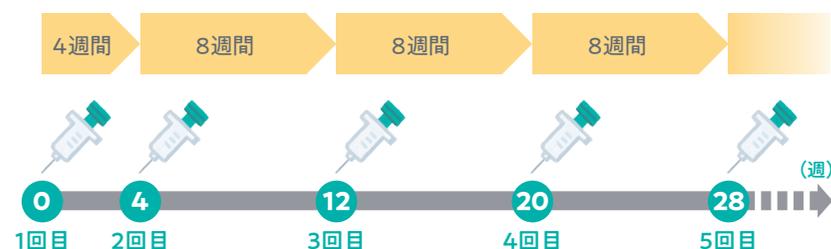
※同じ部位に繰り返して注射をしないようにします。

トレムフィア®の投与スケジュール

トレムフィア®は、1回目に投与した後、2回目は4週間後、3回目からは8週間ごとの間隔で皮下投与します。

気になる症状などに十分注意しながら、別冊の「トレムフィア®治療ダイアリー」を活用してご自身の体調を管理しましょう。

トレムフィア®の投与スケジュール



トレムフィア®を投与した当日

注射した部位への刺激は避けてください。



トレムフィア®による治療中の注意

トレムフィア®は、体の中で免疫の一部の働きを弱める作用があるため、治療中は病原体やウイルスとたたかう力が弱くなる可能性があります。

トレムフィア®による治療を行っている間は、以下のことに注意してください。

日常生活

- かぜやインフルエンザなどの感染症から体を守るために、外出先から戻ったら、うがい・手洗いを行いましょう。



ワクチン接種

- インフルエンザの予防のために、流行前にインフルエンザワクチンを接種することが望ましいです。接種に関しては主治医にご相談ください。
- BCG、麻疹、風疹、おたふくかぜ、みずぼうそうなどの生ワクチンの接種は避けましょう。接種が必要なときには、主治医にご相談ください。

その他

- 妊娠または授乳を希望される方は、主治医にご相談ください。

副作用について

トレムフィア®を投与すると副作用が起こる可能性があります。必ず起こるものではありませんが、普段から体調管理を心がけ、体調の変化に十分気をつけましょう。気になる症状があれば、すぐに主治医に相談してください。

● 投与後に起こりうる主な副作用

かぜ症状など感染症が疑われる症状

のどが痛い、咳が出る、ゾクゾク(寒気)する、頭痛がする、熱が出る、体がだるい、など。

白癬菌による感染症の症状

水虫やたむしによるかゆみ、など。

注射部位反応

注射した部位が赤くなる、痛みを感じる、など。

関節痛

関節が痛む、動かしにくい、など。

● その他の注意が必要な副作用

あてはまる症状があればすぐに主治医に連絡してください。

結核の再燃、肺炎などの重い感染症

過去に治療した結核がふたたび悪化したり(咳が続く、熱が出る、など)、肺炎などの重い感染症を発症した場合は、すぐに主治医に連絡してください。これらの感染症が完治するまでは、トレムフィア®の投与を中止します。



アナフィラキシーなどの重い過敏症

トレムフィア®投与後、30分以内に起こることがあります。かゆみ、じんましんなどのアレルギー症状と似た症状の他、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、心臓の動きがいつもよりはやく感じる、意識が薄れてくる、などの症状があります。

副作用は早く見つけて、早く対応することがとても大切です。
普段から定期的に検査を受けて、少しでも体調がおかしいと感じたら、必ず主治医に相談しましょう。



トレムフィア®治療Q&A

Q トレムフィア®を投与すると、すぐに効果は現れますか？

A トレムフィア®の効果の現れ方には個人差がありますが、効果を実感できるのは投与開始からしばらく経過してからです。効果の判断は投与開始後一定の期間が経った後に検討することになります。

Q トレムフィア®による治療はいつまで続けるのでしょうか？

A 治療をいつまで続けるかについては、主治医にご相談ください。トレムフィア®は、IL-23の働きを抑えることで、皮膚の症状を改善するお薬です。治療を継続することで、症状を抑えることができます。

Q トレムフィア®による治療はやめられますか？

A やめられますが、自己判断で中止しないでください。治療を中止すると、治療によって抑えられていた症状が現れる可能性があります。トレムフィア®の治療の中止を検討する場合には、主治医と一緒に、治療を中止することによるメリットやデメリットについてよく話し合ってください。治療の継続や中止について、あなたも主治医も納得した上で決めるとよいでしょう。

Q 副作用が心配ですが、副作用は必ず現れるのでしょうか？

A 副作用は必ず起こるものではありません。かぜなどの感染症は、普段の体調管理、外出後のうがい・手洗いを心がけることで予防することも可能です。その他の注意が必要な副作用に関しても定期的な検査を行い、安全に継続治療できるよう確認します。

Q 投与予定日に体調が悪くなりました。

A 症状やその程度によっては、投与ができないことがあります。どのように体調が悪いのか、それはいつ頃からなのか、などを主治医にお伝えください。→8、9ページ参照

Q トレムフィア®を投与した当日に入浴してもよいですか？

A トレムフィア®を注射した当日の入浴は可能です。ただし、入浴の際は、ナイロントオルなどでゴシゴシ擦ったりするなど、皮膚への刺激は避けてください。

Q 掌蹠膿疱症以外の持病があり、薬を飲んでいますが、続けて飲んでもよいですか？

A 事前にどのような薬を服用しているか主治医に必ずお伝えください。

Q トレムフィア®による治療の費用はどの程度掛かりますか？

A トレムフィア®による治療費も含めた医療機関での支払額が一定金額を超えた場合、高額療養費制度が適用されるので、患者さんの年齢や収入によって負担額が変わってきます。

